

月山病院小児科

住所 〒640-8269 和歌山市小松原通り1-3 電話 073-423-2300 FAX 073-423-4000
 E-mail tsuki423@oregano.ocn.ne.jp
 ホームページ http://www4.ocn.ne.jp/~tsuki-hp/ (~は*~'-'の@の上の^をshiftで変換。)

今月の小児科診予定

10月中は看護学校講義のため金曜日は13時から16時までは休診にさせていただきます。
 10月2日(火)、10月16日(火)は午後から大学診察のため時間外対応できません。
 10月4日(木)午後診は保健所勤務のため代診になります。(振)。
 10月8日(振)替え休日)は9時-12時まで時間外対応いたします。

10月21日からの日曜日午後(14時-17時)他の曜日を希望される方はその旨お伝え下さい。
 ワクチンは接種してからすぐに効くわけではなくて流行前の10月中旬から11月中旬までに接種を終わらせていただくことが必要です。
 料金等、不明な点がございましたらお問い合わせ下さい。

月山病院小児科では子供達に有益な情報をお知らせするために毎月一回の院内報を発行しております。お役立て下さい。なお御希望の方にはコピーを差し上げます。

おっぱい

赤ちゃんにとって最適な栄養が母乳であることはもちろんですが、実際の授乳相談も多いので今回は母乳についての疑問にお答えします。

母乳じゃないとだめ？

母乳はいろいろな長所はあるものの決定的なものではありません。安易な気持ちで人工乳にされると困るのですが、いくらがんばっても母乳が出ない方や大変な努力をしないと出ない人でも人工乳だからといって赤ちゃんに影響がでるわけではありませんので安心して人工乳を与えてあげて下さい。授乳はスキンシップのひとつです。母乳人工乳の区別なくゆとりとした気分で愛情をもって授乳してあげて下さい。

おっぱいはいつまで？

本来、断乳するまでは母乳を続けていたいただきたいのですが、最低限、生後3カ月程度までは続けるようにして下さい。

おっぱいの与え方は？

母乳は授乳回数が多い程、量が安定します。初期には回数にとらわれず、欲しがれば飲ませていただいで結構です。人工乳を追加する場合も哺乳回数を減らすのではなく、まずおっぱいを吸わせてから人工乳を与えるようにしましょう。

母乳がたりている？

哺乳時間と体重の増加で判断しましょう。ふつう一回の哺乳時間は20分程度ですが、それ以上の時間吸っているようであれば、足りない可能性があります。体重は2週間に1度程度測定して母子手帳の体重曲線と比較してみましょう。体重増加が少ない場合はたりていない可能性があります。

断乳について

一歳を目安にしますが無理をしなくても結構です。徐々にストローやマグマグに変え、母乳の回数を減らしていく(ねる前だけはなかなか難しいですが)ようにしましょう。

インフルエンザワクチン

インフルエンザは冬に流行するお宝の親玉で、毎年感染する可能性があります。重篤な合併症(肺炎や脳炎など)が報告されており注意が必要です。昨年頃から治療薬は発売されましたが完全には予防の重要性はかわっていません。ワクチンも完全に予防できるわけではありませんが重症化は防げます。抵抗力の少ない高齢者、乳幼児および流行時期が重なる受験生にはワクチンの接種をお勧めします。
 小児の場合は3-4週間隔で2回の接種が基本で、ワクチン自体は生後6カ月以上から接種可能ですが、アレルギーや効果の面などより当院では原則として1歳から接種します。1歳未満は医師に御相談下さい。
 当院のインフルエンザの予防接種は次の日程となります。

10月21日からの日曜日午後(14時-17時)他の曜日を希望される方はその旨お伝え下さい。

ホームページ！
 月山病院小児科では保護者の皆様にいるような情報を速報性を持って伝えたいとの思いからホームページを作成しております。ぜひ、御活用下さい。

今週の顔
 真輝君、もっとい顔
 しようよ



100咳

非常に強い咳が持続し、一歳未満の赤ちゃんがかかると咳のため息ができなくなったりする大変危険な病気です。
 咳が強い場合は入院も必要です。また、抗生剤と咳止めを飲んでいただきますが、お薬を飲んでいても咳の期間は本当に百日前後続きます。

予防

予防接種を終わらせていけば、ほぼかかりません。三種混合ワクチンの中に含まれており、生後3カ月から接種が可能です。できるだけ早く接種しましょう。特有の咳が消失すれば登校可能です。

連載！赤ちゃんの処置 かんしゃくもち

”かんしゃくもち”とは聞き分けがなく、親が育児にてこずるような子供のことで、一歳前後から(歩けるようになる頃)多くみられます。小児科医から見ると親のいうことを聞かないという自己主張がでてきた現れであり、むしろ歓迎すべきことです。(この時期を欧米では小悪魔時代と呼ぶそうです)言葉が増え自分の意志がうまく伝えられるようになれば自然となくなっていきます。”ひやきようがん”や民間療法は毒にも薬にもならず、時間のみが解決してくれます。実際の子育てでは親が先に疲れてしまい、いらいらすることもありますが、子供の意志を気長に尊重してあげるようにしましょう。

バックナンバー

(申し出ただければコピーいたします)

- 第1号 インフルエンザ予防接種
- 第2号 発熱時処置
- 第3号 熱性痙攣
- 第4号 吐き下し
- 第5号 インフルエンザ
- 第6号 喘鳴
- 第7号 喘息の予防
- 第8号 タバコを食べた
- 第9号 頭をうった
- 第10号 小児の皮膚疾患
- 第11号 夏のスキンケア
- 第12号 アトピー性皮膚炎(前編)
- 第13号 アトピー性皮膚炎(後編)

日曜診について

当院では小児科診察として日曜日は朝9時から12時まで一般診察、以後午後7時まで時間外対応させていただきます。また、どうしても日曜日にしか予防接種に来れない方は母親支援として日曜接種を考慮しますのでお問い合わせください。

駐車場について

地図を目安に御利用下さい。扇ノ芝駐車場が便利です。



	月	火	水	木	金	土	日
午前9時-12時			/				
午後2時-4時							
予約診(専門外来)	/	/	/	/	/	/	/
予防接種(予約)	/	/	/	/	/	/	/
午後5時-7時30分	/	/	/	/	/	/	/

祝日に関しては日曜日と同時間で対応